

入賞

普通とはなにか

岩出第二中学校 2年 立石 彩乃

「普通」とは、一体どのようなことなのか辞書を引いて調べてみると、「ほかの人や物と比べて、変わっていないこと」「めずらしくないこと」と書かれています。しかし、この「普通」は、人それぞれ、時代や地域、国によっては意味合いが異なるのではないのでしょうか。

例えば、私がいま考え感じた「普通」とは「家族みんなで集まり、ご飯を食べる」「学校に行き、勉強や部活動をする」「ゲームやテレビを見たりする」「友達や家族のみんなと話す」そんな日々の繰り返しが私にとっての「普通」だと思っていました。しかしそれは、私にとっての「普通」であって、他の家族にとってはまったく違うのかもしれない。

私の父は交替勤務で曜日や祝日に関係なく働いています。全く会わない日が続くことも多々あります。

これが私の「普通」の日常ですが他の家族からしたら普通ではないかもしれません。

また、祖父母が近くに住んでおりいつでも会えます。ニュースで見る帰省ということをしたことがありません。これが私の「普通」です。

また、社会における「普通」も時代によって変化していきます。かつては、女性が家事育児に専念することが「普通」でしたが、男女雇用機会均等法が施行され、女性の社会進出の大きなきっかけとなりました。

今は、「主婦」・「主夫」という用語があるように家事、育児に男性が専念する家庭も増えてきているそうです。

多くの女性が社会で活躍し、男女共に多様な働き方を選ぶことができるようになりました。男女雇用機会均等法が施行される前後の日本全体の「普通」が変わってきたのだと思います。

しかし、全世界で調べてみると、日本は146カ国中、118位と女性の社会進出が遅れているそうです。

このようなことから私は、世界の「普通」が日本の「普通」にはなっていないのだと思いました。

国や地域が変われば、「普通」が変わって当たり前だと思

います。毎日食事を食べ学校に行くことが「普通」ですが、国が変われば、私の「普通」は特別なことになります。

家庭内でも性格が違い、考え方も全く違います。例えば、私の性格は人見知りして特に大勢の前で自分の意見を言ったりするのがすごく苦手です。一方、兄は私の性格と真逆で人見知りでもなく、初めて会った人でもすぐうちとけ、仲良くなれるような性格です。妹はどちらかというと、私と性格が似ていますが考え方は全く違います、同じ家庭で生まれてきても、他の年代や環境で育ってきた人とは考え方や性格が違って当たり前だと思います。

「普通」の基準は、生まれた国や年代、時代や地域、育った環境によって異なります。私や皆が幼い頃の夢や憧れがあって「普通」だったけれど今では「普通」ではなくなってしまったかもしれません。逆に今の私たちが当たり前に行っていること、「食事を食べる」「学校に行く」などは昔の日本では考えられないことかもしれません。

大切なのは、自分の価値観を大切にすること、そして他者の考えを否定せずに尊重することだと思います。

「普通」に囚われすぎると、自分の個性を押し殺してしまい、自己否定につながるおそれがあります。だから、私は「普通」に囚われすぎず、自分自身の個性を認め、他者を理解することで「自分らしい普通の人生」を送ることができる、そう信じています。